

# 10.20 大学生大會

- 一切の「学園正常化」の策動を粉碎し、筑波移転阻止の実現まで、断乎たる長期ストライキ斗争をまいとこう！
- 対評議会大衆団交実現めざし、学長宅抗議斗争・大塚完全封鎖をまいとこう！
- 「単後民主教育擁護運動」をのりこえ、教育の帝国主義的再編を断乎として粉碎しよう！

---

対案提出責任者=竹谷三四郎(法政2)・葛西隆彰(哲2)

# 第一回 総括

本学生大会に結集した学友諸君！

私達は、九月二十五日の学生大会以降、一ヶ月を  
にわたつて、気波移動阻止斗争を斗つてきたりしな  
しながら、単に教育の帝國主義的再編の一環として  
の氣波移動阻止をするといふ課題の大きさのみなら  
ず、他ならぬ、私達自身の斗いの限界によつて、現  
在、斗争は極めて困難な状態にあるといわざるを得  
ない。

そもそも9月25日の学生大会においては、多くの  
学友の結集をみちとりながらも、9月27日からの前  
期試験を控えて、気波移動を実力阻止するといふ立  
場に立つて、斗争の長期化に不まえ、二の試験攻勢  
に対し、試験不応戦の意志一致をみちとつて  
いくことできず、旧執行部学友諸君が、破壊犯に  
も、本館封鎖解除を提起したことをめぐつて、それ  
に直面した形での本館封鎖といふ斗争形態試験に  
陥没してしまつたのである。まさしく何故、旧執行  
部学友諸君が本館封鎖解除方針を出さざるをえないの  
かを暴露し、彼らの気波移動阻止斗争の学田民主化  
運動への歪曲を粉砕しつゝ、长期ストライキ斗争を斗  
い抜く意志を打ち固めるべきであつたにもかがわら  
ず。

としてその意志の眞結として、大学当局によつて試  
験がなしく申し時に延期されると、斗争委員会局の  
無方針と相まって全体的に斗争の焦燥が木けてしま  
つたのであつた。このよくな中で、哲学クラスを中心  
として、対評議会大衆団交要求の斗争が提起され、  
掲げられたのであつた。しかし大衆団交とのものの  
より学生が参見に付して十分な内容的な対決ができない  
なつたと思われる。当局との接触へ学長公見せのつ  
みみさねの延長上に団交を考えており、また、どの  
団交においては、例えば理教授会のもの決定白紙散  
回可決などをテコとしつゝ、教授をオルタシ、学長五  
学部长評議会に対して、学田の民主化を迫つてい  
るものであるとか、また形式主義的に、大衆的分明  
化、学内の民主化の統一の一環としてあることを  
見抜き、また団交とのものの試公主義的位置付けに  
よつて、それらの誤謬の結果、彼らが不斷に、大學  
当局の機系統のつからざるを得ないのだといつこ  
見抜き、また団交とのものの試公主義的位置付けに

とを暴露し、文キ要旨ど部の旧執行部学友諸君と  
の対決の限界をのりこえて私達は斗つてきた。

このような斗争委員会局の限界と無能性は10月  
の助教会主催のティーチィングをめぐつて一挙に爆發  
し去つたのであつた。それはティーチィングの前日ま  
で、ティーチィングに参加する方針があつた。その理  
由としてまずのそれが體調病に考えられ、(2)集まつた  
人々に、師試公田文の必要性を認めさせ、師試公を交  
替し、教授会の指しめをするといふものであつた。

しかし哲學クラスを始めとして、ティーチィング本  
ゴットの方針をつきつけられると、ティーチィング阻  
止になわり、その後も一二戦三戦したのであつた。

以上のような事ム局の指しめの破天を何とかとりつ  
くろうべく、学内の移動阻止斗争の推進を放棄し、  
10月16日に、学田斗争勝利全郡総決起集会文部省文  
モヘと学友左政治技術的に連携出したのであつた。  
そして10月19日の学長公見せ抗議行劫においては、事ム  
局内多教派学友諸君は、自らが提起したにもかかわら  
ず殆んど姿をみせなかつた。

学友諸君！ここに至つて現在の事ム局の指しめの破  
天は明らかではないか！

そして、政治斗争においても、10月18日の学生集  
会において、旧執行部学友諸君の学内斗争も試験に付  
けると云ふことに付して、それを旧執行部学友諸君の  
10.21文部省文モ方針の認まりを指摘し、10.21反敗  
反安保、沖縄斗争推進のため移動阻止斗争をヨリいつ  
も同時に10.21を政治ストライキとして斗争ための強  
固な意志一致の場としてあるのだと、内審的に粉砕す  
るのではなく形式主義的に粉砕し、そこで討論も強  
いらず、まさにマスクミナル新日本の影響もあつて、10.21  
私達は、二の10.21斗争の意義を確認し、どうわけ根成  
左翼、社共の政策に支えられづゝ、政府は支配者階級  
によつて氣狂いじみた騒乱罪適用という攻撃をかか  
げられて、騒乱罪適用に付して断乎たる抗議斗争を斗  
うべきであつた。にも拘らず、文常社委はそれらを  
一切放棄し、10.21斗争の意義を抹殺し、騒乱罪適用粉砕  
の斗争を日知見主や内に放棄していつたのであつた。  
学友諸君！私達は、旧執行部学友諸君の斗争の歪曲  
妨害と斗争委員会局の無方針・署名を越剝し、吉良  
教育の帝國主義的再編とは向なのが、また戦時民主  
教育ヨリゴ運動の限界は何なのかを再度、用ひながら  
し、深化せしめ、田民教育擁護運動を支えているイ  
テオロギーとも対決し、それを媒介として、教育の  
帝國主義的再編の一環、移動阻止の斗争を断乎とし  
て斗争をやこうではないか！

## 第二章 移転阻止斗争をめぐる情勢

## 第一節 政府（文部省の「筑波研究学園都市構想」の現段階）

今年度春以後、政府は文部省は、學園斗争を激化する中で、くりゆけ曰大斗争の盛り上がりの中で、佐藤首相自ら乗り出し大學当局へのテコ入れを開始したのである。大衆団交には絶対応する旨と、いう唱喝や、「大學存續」をも含む彈圧立法の策動そして「大學問題懇談会」の設置への策動等々それがである。この學園斗争の発出こそがへの彈圧の工具カレート二三日、今日の教育の再編成の各大學への要諒が、急ピッチにしかも激烈に行なわれてゐることをほつきりと示してゐる。今日行なわれてゐる大学の策動は、政府リ文部省の野望を赤裸々にし、とも決意の固さを露わにしてゐる。同時に彼らの野望をスムーズに貫徹し得たハニとを示してゐるのだ。

わゆる「民主主義教育」の帝国主義の政策、「道徳」「一貫性」としての教育界との協同の強化」という政策に他ならぬ。戦後米帝の支配の下にアメリカン・モルクラシーの影響を受ける自由主義教育が輸入され、それ以前のハーゲンの天皇制的な「軍國主義教育」が解体させられていった。しかしその後の日本海陸主義の復活と共に10年以後の池田一佐藤と引きつぶれた「高度経済成長」政策の一連の実現を物質的基礎としてつづく设立法人海の大量生産」をめざした「産學協同」政策を通じた教育の再編成が開始されたのであつた。その内容は、オーニ教育内容の改編として、即ち理工科系偏重・应用部門の強化・工業経営学科の新設・文学科・社会科学系の切り分けの「マスプロ」教育等としてあり、オニに大管法をはじめとする教育制度を意味するにすぎない「大学の自治」をせざめ立政令の発布の役割など（この）ある。更に右に見えて

つた教育内容の物変化をする為に、一期待される人間像として代表されるマルジニア民族主義・マルジニア民主主義の強調としてあるのである。そしてこうした再編成というものは、教育労働者・教育労働者に対する合理化として、即ち教育内容の改編は教育労働者の強化を意味し、教育労働者に対するイデオロギー・攻勢を意味し、教育制度・大学制度の改悪は労働条件の悪化を意味するのである。しかも同時に教育労働者運動に対する弾圧・とりわけ日教組を指揮する社会党・統評の指導をのりこえて斗ひんとする戦争的効力労働者に対する弾圧をも背後として有されてい

卷二

## 大字三層の移転推進の現段階

るのである。まさに二つした教育労作の合理化を通じて教育の帝国主義的再編成をされ、わざわざ学生に対する教育・育成・人間形成を「複数の人相」へと反動的に方向付けているのである。しかも右に見たような教育の帝国主義的再編成は、も右に見たような教育の帝国主義的再編成としていくとの背景には、今日の日教組を中心とした教育労働者のヨハ内、社会党、飛洋の指導の下に、そして又日本共産黨の指導の下に基本的に敗北させられていく事態があるのだ。即ち今日改憲の斗争は、教育の帝国主義的再編成といつ教育労働者に対する合理化の攻撃と直面々対決し格闘していくといふもので、何らかく、戦前の「民主主義教育」を美化しその姫侯の延長線上で「国民の為の教育」を追求するといつ、角くつしろ向き合おうとして國民主義的なものでしかない。戦後の「民主主義教育」も又今日帝によつて追求されてゐる「及にかつ教育」も根本的に帝国主義教育の二つの形態にちぎりいことなくバクロしてゐるのである。まさに二つした斗争の歪曲を兼として今日帝によつて、教育の帝国主義的再編成をおし進のうとしているのだ。

二の教育の帝國主義の再編の一環として、しかもその要として、「筑波研究学園都市構想」なあり、私大よりも再編成の遅れていた教育大の筑波移転があるのだ。この「構想」は、今までのようないつても大学におりる用廻・移転流离など異なり、多く研究所をも含む純喫茶ものとして、新たに試みであると云えよう。その重要性をちして、研究所や大学当局の動搖にも拘らず、今日強力に実現化を図られ、今や既に事務レベルの段階へと進もうとしているのである。

右に申したよう局改訂リ文部省の「氣波研究學園  
都市構想」に對して、大學當局は各學部教授会が  
如何なる対応を示してゐるの如き、基本的構成  
として、理教授会の移転推進の過販とあり、  
文教授会の移転反対の如く、  
つた。理教授会の變遷  
もレーヴヌルフヨア  
實化と同時ニ 研究會の變遷

めてきたのであった。そして文教検定会、理教授会の様な物的問題を専ら程も。ついで二つ次第しこ、しかも戦後の「民主主義教育」や「国民教育」の理念が相対的に強く物質化していくことからして二川吉三の教育的理想を抱き、「うしろ向き的に反対しているのである。しかし全体として物的基礎の意識を強く受けている理教授会を中心とした移転推進系のヘゲモニーが発展し、これまで文教検定会を孤立していたのであった。

文部省のストライキそして本館封鎖という物三月六日行動形態をもつた学生の反対運動が百三〇日を越えて今日・大学当局も内部の新たな構成を示してゐるのである。各学部教授会内部の推進派と反対派の二極分派が進み対立が激化し、しかも推進派文部省を二二三で共同して推進の策動を行ひ始めたのである。現在の大学当局の方向性は次の様に考えらる。即ちオーバー人、ノ・ゾ調査費計上束結をもつて反対運動を収拾する。オ二には、文部省由縫機動隊等入々をもつて一気に斗争を撲滅させる。オ三には、自動前突を氣長に待つ。という三つの方向性である。現在この方向性は最も有力であるが明確であり、調査費計上束結をより多數を旨めているところからして今想されるところ。反対運動が更に三回復活するのを防ぐ。調査費計上束結をもつて内を結束し、外を攻撃する戦略的學生に対するところである。しかし、學生のヨハニ基本的には維持され、「」現在、しかも大学当局内部で未だ調査費計上文部省一本に義理づけ得て、おハ現在、こうした方向性をたぢた意義あることはあり得ないと考える。延って結果内には、大学当局も長期的を取り組み方をとらざるを得ないと云ふるのである。

### 第三節 学生の斗争の現段階

われわれのヨリ以て、文理部スト突入以来既に百三〇日余りを経てゐる。他学部においては、農学部等十一月廿五日までの長期ストに入してゐる。しかじ理学部においては、スト反対派が大量に結集してゐるのである。こうした他学部の状況に規定されつゝぞ学部においては、いなむる情勢が展開されていざぞうや。

オービーム。9月26日学生太政公以後、对講会大  
連交にかけての大衆的力斗争の組織化な、斗争委  
員部によつては生々放棄されてはいるといふことであ  
る。理教授会との大衆団交の確約文書前に記される  
こいつ大学当局の策動に対する原則的な断手たる  
抗議斗争を取り組み得たのは、哲学クラスのイニシ

アの下、戦ヨ内のクラスのみであった。しかも10月19日対学長宅抗議斗争も、哲學クラスや東洋文化クラスをはじめとする戦ヨ内のクラスしか召集しない。敗北していったのであった。そして10月26日の学生大会にむけてのヨ争委員会も50名の出席し、総集会は得てみつたのであった。この斗争は、在學会指導部の指導の下、全体としてクラスも分離化し、統一移動阻止上の内容的深化もなされた。この斗争の諸君もクラスの立て直しを圖ろうとしてきた。なまじきな運動へと学友を結集することを通して、クラスの再組織化をはかるのみならず、土地改革決定白紙撤回までレベルを上げる立直しを追求しているにすぎない。しかも、哲學部執行部や「全国連絡会議」と称する諸君を、10月土地改革決定白紙撤回までレベルを上げるといふ中で、彼らのこのジンサクに対する何ら内歎めやめ決意へと入れてはいかない。こうした中でもたゞでいる本学生大会も、その召集力において種々の限界をもつてはると云われねり存ひだらう。

# 第二章 一、完全封鎖、長期ストライキ

## 第一節 二、争事実の「民主化」

### 運動への歪曲反対

学内において全く想がつてゐて、その無能性をいかんなく發揮した事実系諸君の外についてふれてみよう。

去る10月16日十箇斗争権利全館封鎖起集会しがもたれ、各部員へてとを行ひ、だが、その内実は如何なるものであつたのか? この斗争はクラスではもちろんのこと、クラス代表者意識において何ら大衆的討論されず、総の上部団体が全館封鎖で決定したことまた決議し方針で行し前半的に決定していく。たのである。まさにローランなどの内実について全く對応されず、筋波移転阻止斗争の内実が「日本大路線」という自資校建立の自身に不敵に三められては、たのである。事ハ局系諸君の言うところの「全国学生勝利」「世之學との連帯」など、各大学で行なわれて「全国斗争」そのものの問題や限界真については一指もハレ下にアホリナリに言われさへいるのである。そして「連帯」なるものが、この内実にあつてのよてに重高してハくのか、どううすうに向魁を決定せしむ、誠にたゞ元文部省・在籍生・民衆等学生との対決にかけるべルト闘闘として感機にかけけるといふ連帶」をしかなし。これは、教育大の筋波移転阻止斗争の分散化状況を向ら打破ひさび、ひしろ外的条件に向魁をそりせる事務局系諸君の政策技術主義がさまねしでしかなり。※

ぞしこ又、彼らは、この二つの自らの運動の根柢を陰蔽するため、「自主講座」なるものを打ち出してさこしる。無指導と政治的、さまわしによつて各自内容からすまへこゆく傾向を、その裏返しとしての理論注入によつて空氣入れせんとしているのである。過去身「自主講座」連帶の破産の経緯なしに。前故共にがこの二つたジタ女々を出るのか? すべく彼らが「自主講座」運動を知的生産の前進、且若能の拡大などとするが故に、筋波移転阻止斗争への外的結合になつてしそうのである。

そして現在、クラスが今散化していふ状態を、クラス討論をしてと一張的に提起しており、クラスの結果卓としてのクラス討論でしかなく、向を諭すに近を實現せんとクラス討論をしていふのか不明確にちつてくる。オさに10月26日の斗争委員会に50名しか結集できなかつたのは、この証をである。の事務であることをほつきりとみなければならぬ。

## 第二節 「全學連連絡会議」系の「學園民主化」

### 運動への歪曲反対

現在「全學連連絡会議」系諸君は、10.21」年に對して「商業新聞の反學生運動キャンペーんによるつくり出でれている学生の即目的「反暴力」意識に迎合して、反ローラン反暴力キャンペーんを行つてゐる。そしてしかレニの本館封鎖解除なるものは、既に過去しりぞけられたものの、10.21等への「反暴力」キャンペーんを新たに利用した焼き直しにすぎないのだ。

オ一に、この「反暴力」キャンペーん、官憲の強压に抗して如何に戰斗的な實力斗争を実現するか、とハう違反とは全く無縁だ地平にありて、商業新聞を動員した氣狂いじみた「反學生運動」のキャンペーんを賛美の根柢としてつくり出でてゐる。多くの学生の「反暴力」意識に大衆道徳主義的にのつかつたものにすぎないのみある。

オニに、本館封鎖解除なるものが、「民主田代授」との連帶とその内実とする「学内共斗」し游説から違反され、こじらニヒルある。しかしニの「連帯」も「共斗」は紛糾も強止、そして「カシ形態」としての本館封鎖を斗争の学生の主な運動を「学生の自己保護」へ、行方定めにとか「筋波」では、首部の發展はあり得ない。「筋波」の教育を守れレと、いう之学部教換会レベルへと宿し込めるものに他ならぬ。既にオニ章でみたような移転反対の教育の学園主義的再編への対応の歴歎を用ら書き出し得たものである。二つした中立主義的「共斗」し略縁に基ひて本館封鎖解除なる方針が打ち出されることは勿論が、こうすることによつて、大學当局によつてなされた「筋波」では、この強制的な推進の策動に対しても断然の戦斗的な実力斗争を追求し得なくなつてはゐるのみある。

さればカリスコナリ。

今日彼らは、も10月26日決定白紙撤回から6.20土地確保決定白紙撤回へとフレームアップして、見聞局の諸君は、譲渡してしまつてゐる。しかし果してどうせ始めている。そして二つした動きに対しても斗争を事務会とからり、民生化しに也行はれなかつた。これは教育大の「反動一派の宣教」であり、学長退陣もあり、「学内画帶」を変革され川河駅改修の実現をさせたのは、まさに彼らの追求していふものである。内実は、「体細胞をもつた車両」か「車両をもつた車両」か?

教育の帝國主義的再編の一環としての筑波移転を実現するものとは全く無縁のものであつたので、何をいいか? 『全学連運動会議』系の諸君は、一校改組を始めとする前と、気がもつて今日の日改組を初めとする教職員組合が『筑波研究園都市』に對し一体如何なる斗争を展開しているのか? へまこにて大学の發展への名づ下に全く斗争放棄しているではないか? に於て、今日の教育労働者の争いとして教育大學の教授達が教組で一体如何なる争いをして、いゝのか? まさに今日の教育労働者の争いに小かることなく、大学当局は教授会の変革を夢想することは、全く現実性がないし無意味なことだと云わねばならない。いや、それが学生の争いの内実と成斗争を歪曲し抑圧するものである以上、争いに附する敵対であると云わねばならぬだらう。

我々は『學園民主化』運動とのりこえて斗かうことをくして、教育の帝國主義的再編の一環より筑波移転を実力で阻止する二点は決して出来得ないことをえる。更に、『全学連運動会議』系諸君のまさかえしテコとしてつくられて、『一年生行動委員会』に對して、全ての斗争一年生諸君が判決しりこえうことを訴えたい。

### 第二節 われわれの方針

以上行なってきたよう、總括と憤せ分析とに踏まえて、我々は次のような斗争方針を提起していくたい。我々が確認しなければならない第一の点は、この斗争が明確に教育の帝國主義的再編の一環としての筑波移転とのものと對する、反対の争いとしてある。我々は、常任委員会指揮部系の諸君が、この斗争に対し、大学革新の大改革だのといつた意味付与を行なつていくことに付し、そのまやかしを断固として追求していくとともに、旧執行部系諸君が、この斗争を學園民主化運動へと歪曲していくことに對しても、彼等の「民主」や「力」の拡大「なる」論理の語彙、との單純な政治力学主義に基づいたすばすぶ統一戦線説の誤謬といふのをつき出しつつ、またに彼等が日々の大衆斗争の誤謬においてこれらの誤謬に陥らざるこえないその根柢にまで迹かかほいた所の徹底した批判と、断固としたイデオロギー斗争と、それを媒介にしたところの非セミナリカルな党派斗争を通じて展開していくたれ。

まさに我々の争いは、政府文部省が打ち出して来た・教育大の筑波研究園都市への移転という、一政策へそれを直接現実化していくのは学校当局であり、したがつて我々の斗争対象は直接には学校当局なのだが、その反動性、その反プロレタリア的本質に

付する反撃の争いとして、ちのうのたゞいことを、はさりと押さえがえしていかない。これはない。この筑波移転阻止という我々の要求を實現すべくなされはならないが、一つの課題か、討評議会固交を提起したい。そして、それが拒否された場合においては、明確に大坂さだ、正門ヒケットライニの裏を、二の学生大会において大衆的に確認してはきたいと考える。

さらに我々は、教育大の筑波移転をその一環とする所の研究學園都市構想をのものの反動的な本質とみてとろなは、文部省に対する断固たる教育大軍獨特モモをもなししていかねばならぬ。そしてその組織化の過程において、行動の一致、批判の自由という左翼的原則に基づいた所の他学部執行部との統一行動の実現とも、大胆に追求していかねばならぬだろう。まさにこれは全学統一ストライキへの準備としてあると、同時にまた統一行動の中におけるヨーロッパ斗争の心臓を通じて、他学部執行部の反革命的な腐敗した運動をのものの如体上場の場としてもあるのだ。

しかししながら我々がこのような争いを展開しようとする今、彼我的の力關係は、かららずもし我々にして優利なものとしてはないし、学校当局の我々の斗争に対する以前として高圧的な対応といふものとみるならば、我々に課せられている最も重要な任務は、長期大坂完全封鎖ストライキを担うる体制の確立にある。ことは、さりとて、筑波移転阻止斗争の真に革命的な争と、様々の課題をもつた斗争への積極的、主体的な参加を通じて、筑波移転阻止斗争の真に革命的な展開を可能たらしめていかねばならない。まさに先述でたような行動形態を真に内実のあるものとして実現していくためには、争うすべての学友達のこのような苦斗をとおして、現在の斗争の限界と誤謬を克服しつつ、その革命的な転換をはかっていかなりればならないのだ。

学友諸君! 一切の腐敗した運動をのりこえ、筑波移転阻止斗争を革命的内実をもつて争ひぬことのないだが)の反動性、その反プロレタリア的本質に